

令和5年度人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金  
統計エキスパート人材育成プロジェクト 中間評価結果  
(事業実施期間：令和3～7年度)

実施機関：統計エキスパート人材育成コンソーシアム

(中核機関：情報システム研究機構統計数理研究所)

(1) 評価結果

総合評価 S

当初の計画を超える進展があり、事業を継続することで、さらに優れた成果が期待される。

(2) 評価コメント

中間評価の現段階で、本事業への参画機関数や育成対象者数は、当初の目標値を大きく超えることは確実な状況であり、事業全体として非常に順調に進捗している。

コンソーシアム運営については、中核機関の優れたリーダーシップのもと参画機関との緊密な連携・役割分担が図られ、参画機関の多様なニーズに対応できる適切な運営体制及びマネジメント体制が構築されている。

研修については、統計学以外の幅広い分野の育成対象者が参画し、豊富な知識・経験を有するメンター教員による手厚くきめ細かな指導が行われ、欧米や国内教材の調査等により研修教材の見直し・充実が図られるなど国際水準に照らして遜色ない研修が行われている。また、模擬講義の充実等により教授法も進展し、育成対象者同士が切磋琢磨できる環境下で知識・能力の向上が図られている。

本事業の継続により、我が国で不足する統計人材の需要への対応、質の高い統計教育の急速な普及及び様々な分野における研究の発展にも大きく貢献されることが見込まれ、さらに優れた成果の創出が期待される。

(3) 留意事項

- 国際的統計人材の育成に向けて、英語での講義に対するサポートなど、国際的コミュニケーション能力を涵養する取組も考慮すること。
- 運営体制について、運営委員会等の委員の所属が一部固定化されているため、一部入れ替え等を視野に入れ、より多くの参画機関の意見を集約できるよう検討すること。
- 統計学・データサイエンスは産業界でも必要とされているため、本事業の研修内容や育成人材について、産業界からの評価のフィードバックを得ることについても検討すること。
- 今後の本事業の継続・発展に向けて、メンターの質の確保に留意しつつ、新たなメンターの採用も見据え、本事業での経験やノウハウ等を記録・蓄積し、漏れなく引き継がれるような取組を検討すること。
- 統計エキスパート人材を、ニーズに対応しつつ多様な分野で育成する取組は、本事業終了後も継続する必要性があり、事業終了後も本事業の成果を活用し、コンソーシアムを中心として発展的に継続できるよう、事業実施体制も含めて検討すること。